

「我とそれ・我と汝」

～聖霊様と共に生きる～

ヨハネ 15 : 25 ~ 16 : 33

みなさんは本当に神様を前においでしているのでしょうか？神様から聴く人生を歩んでいるのでしょうか？しかしその中で、神様はイエスキリストを通してこの地に來られて、そして人として來られたイエス様の姿を見て神の性質というものがどういふものなのかを示す為に來られました。しかし私達は今そのイエスキリストをみていてはあきません。でもそれぞれの人がクリスチャンになるとイエス様という人はこんな人だという姿を語り描くのです。にも関わらず私達が目の前にイエス様を置いて生きられないのは何故でしょう。「我とそれ・我と汝」これは聖霊様と生きるためにとても大事な事です。どういふ事かという、みなさんは何故教会に來るのですか？聖霊様の役割はなんですか？神様がいつい何て伝えるために聖霊様をくれたのか？聖霊様と一緒に生きるようになると「我とそれ」から「我と汝」になるのです。「我とそれ」といふのは何故その人と一緒にいるのか？その人の人格ではなくて、その人の意味になっているのです。それは形になっているのです。ヨハネの中から神様があなたの人生をもっと深く関わりたいとやっていてのです。人を通しての信仰ではなくて本当に神様と一対一につながって本当にあなたがそこにいる事が喜びになって、あなたがそこに存在しているだけで素晴らしいことが理解されるのです。そうすると、どんな境遇があなたに起ころうとあなたの敵があなたに剣を向いてこようとなああなたが、たとえそこで一人になろうと平気なのです。「患難さえも私は喜んでいきます」ローマ5:3 人を通してではなく神様を通しての十字架になるとそれは大きく変化します。私達は今、教会をそれにしまっているのです。あなたの心を満たすものなのです。礼拝はあなたの問題を解決するものなのです。確かにそうなのですが神様はあなたの礼拝の環境を回復したいのです。あなたとあなたの人生を回復したいわけです。あなたを創造した時には神様とひとつなのですよ。ところがあなたが離れたのです。そして近づいたり離れたりしているのが波が起きますのです。しかしひとつとなると、そんな事は起こらないのです。そして神様はそれを自分かすのではないと言っているのです。「私が父のもとから遣わす助け主、すなわち父から出る真理の御霊が來るときその御霊が私についてあかします。」「あなたがたもあかしするのです。初めから私と一緒にいたからです。」ヨハネ 15 : 26 ~ 27「これらのことをあなたがたに話したのあなたはたがたが近づくとこの無いためです。」ヨハネ 16 : 1 クリスチャンの人生は戦いが起きます。悲しみが起きます。その事をわざわざ伝えているのです。「人々はあなたがたを会堂から追放するでしょう。事実、あなたがたを殺す者がみな、そうすることで自分は神に奉仕しているのだと思う時が來ます。」ヨハネ 16 : 2 パウロがやっていたことです。神に奉仕するつもりで彼らはキリストを迫害していたのです。神様の中に入っているのではなく、神様の外にいたのです。「彼らがこういふ事を行うのは父をも私をも知らないからです。」ヨハネ 16 : 3 あかす御霊はあなたの心にその本当の神様の姿を教えるのです。だから私たちは、そのあかす御霊と一緒にいらないとだめなのです。では一緒にいるためにはどうしたらいいのでしょうか？この方はあなたの心を強制的に引張る事はありません。愛の人であなたの戸をたたき聖霊様の声は本当に細く静かです。あなたの心に風を送ってその等身を消す事はしません。静かにあなたのそばにいつもいて、あなたの心が静まったときにはじめてその人の姿がわかるのです。もうあなたの罪は癒されあなたの過去は癒され回復されたその十字架がどれほどのものだったかを私達は知らなければならないのです。まだ、わかっているの未だに過去に引張られ、人の言葉に右往左往させられ、イエス様の中に入っているように思えてイエス様の外をうろろうして傷つけられ、つまづくのです。だから、戻らなければならないのです。ところが私達が戻るのではなくて戻ろうとした瞬間にイエス様があなたを覆ってくれるのです。そして初めてあなたの人生があなたが生きるにあらざりキリストが私と共に生きるのだと言えるようになるのです。いつまでも自分がそこに生きていうちは誰かを指差して生きるしかないのです。誰かが悪いといふしかないのです。本当はわかっているのです。自分の心に痛みがありみじめな事は、だけどそれが辛くて誰かに指差して生きてしまいます。だけど、私達は「我とそれ」だった神様から「我と汝」に戻りたいのです。その人は何のためにいるのでしょうか？あなたの欲を満たし、あなたの都合をほらすためですか？夫婦はそのためにあるのでしょうか？全ての人生において、この「我と汝」と「我とそれ」といふのは関わってきます。親子関係もです。親はあなたに物を差し出すためにいるのでしょうか？あなたの親を満たす為には親は存在しているのでしょうか？あなたの願いが叶えられるためにいるのでしょうか？その関係では「我とそれ」です。しかし私たちは、もう一度「我と汝」にならなければいけないのです。その人の存在の意味を知ってその人の価値を理解して、あなたがいるのは、その為だといふ事を知らなければいけないのです。あなた

がいてるのは、その人がいてるのは、その人に働く聖霊様の姿を通してイエスキリストが現されるためなのです。だから夫婦といふのは、この家族といふのはその人がイエス様の姿を現せる聖霊様と共にいられる場所ではないのです。あなたが家族と関わる時そこで色々な痛みが起るでしょう。そこで色々な痛みを感じるでしょう。

■ 罪・義・さばき

「その方が來ると罪について、義について、さばきについて世にその誤りを認めさせます。」ヨハネ 16 : 9 罪について何を聖霊様は語らせるのでしょうか？「しかし私は真実を言います。私が去って行く事はあなたがたにとって益なのです。それはもし、私が去って行かなければ助け主があなたがたのところに来ないからです。しかし、もし私が行けば私は助け主をあなたがたのところへ遣わします。」ヨハネ 16 : 7 では罪とは何ですか？ここで言われている罪とはイエス様を信じないことなのです。イエス様を信じていると言いつながら信じていないことなのです。だから私たちは罪を犯してしまうのです。罪の実を犯すのです。人を憎しみ、人をのりして、裏切つて、うそをついて、その人を裁き、その人に怒りを燃やし、その人を否定し、その人と関係を妨げようとするのです。なぜかといふとイエス様を信じていないからなのです。イエス様は回復するために十字架にかけられ死んだのです。もう一度思い起こしてみよう。それがわかればイエス様を信じます。そして、あなたの生まれてから死ぬまでの全ての罪過をはらったのです。その人があなたの人生に関わらないわけがないのです。信じるという事は私たちのこれからの全てを信じるという事です。私達は神様の一箇所だけを見て神様を小さくしてしまうのです。そして神様を勝手に判断している罪とつきあうのです。罪のあるところに聖霊は働かせません。人を憎んだままでは働けないのです。だから、神様に近づこうとした時に神様は私たちの心の中を満たすことができるのです。「また義については、わたしが父のもとに行きあなたがたがもはや私を見なくなるからです。」ヨハネ 16 : 10 これは、この世の義と神の義が違うことを言っているのです。私たちはイエスキリストを見てイエスキリストに自分の義をあてはめようとした。ユダヤ人はだから彼を十字架につけようとした。この世の義とはダビデ王朝の復活だったのです。神様が義と言った義は天国の義だったのです。その天国の義とは何だったのでしょうか？イエスキリストがあなたのために命を懸けて死ぬ、それが愛の義だったのだと証明するために私が去るのだといふ事を行っているのです。だから、義とは十字架と復活なのです。義といふのは神の愛の中からはなされるものなのです。この事は言葉では理解する事ができません。しかし聖霊様がくるとこれを証するのだと言っているのです。義とは愛の現れなのです。十字架なのです。「さばきについてとは、この世を支配するものがさばかれたからです。」ヨハネ 16 : 11 さばきとは、この世の悪を理解していなかったといふ事なのです。私たちは人を指差して人を裁いて、環境を裁いて、のりして行っているのです。ところがイエス様は裁きとはこの世の悪が裁かれる事なのだといふ事です。神は罪を憎んで人を憎まない。神が裁いたのはその人ではなくて、その罪のとうしようである悪なのです。だから聖霊様は、この十字架で罪の対象が何なのかを教えているのです。人を裁く私達はいつい何者かと聖書はいつい何者か？あなたは自分を裁いてはいませんか？人を裁いてはいませんか？今、裁く心が私たちの心から出て行かなくてはなりません。私達がイエスキリストを信じないでイエスキリストの義がわからないで裁いているのです。神の領域になって人を裁いているのです。裁きの対象はそこではないと聖霊様は言っているのです。誘惑者がいてあなたの罪を犯させるのがいるという事をよく理解しておかなくてはなりません。そして神に告発するのです。しかし、その告発者は投げ落とされた事をよく知っておかなくてはならないのです。だが、彼らは神に裁かれたのに私たちが理解していないからあなたを誘惑するのです。だから聖霊様があなたを覆う事ができないのです。あなたはどうしたら信じるのですか？誘惑するサタンですか？それに勝利する神ですか？あなたはどちらを求めますか？

まとめ

イエスを信じるという事は彼の生涯を信じなければなりません。彼の役割を信じなければなりません。あなたの人生を変える人です。私たちの間違った価値観をつくりかえ、あなたを覆うその方は痛みにあっても勇敢であれ、そう語られるのです。それをなされるのは聖霊様なのです。ですから、求めていきましょう。

(要約者:小根久保 麻由美)

(2018年11月18日)